

## 西水 美恵子

にしみず・みえこ＝75年ジョンズ・ホプキンス大学院卒、プリンストン大経済学助教授を経て、世銀副総裁。退任後、シンクタンク・ソフィアバンクのパートナーなどを務める。



昨年正月の本稿に「この夢を正夢に」と題して、初夢のことを書いた。我が国の民間企業の

過半数が、人間の幸せを、各々の最高使命としている夢である。社員とその家族はもとより、下請け会社など関連する全企業の社員と家族、会社が属する地域社会の住民、顧客、そして株主……。企業が関わる全ての人々の幸福を追求する経営理念……。

その理念をブレなく実行し、増収増益を果たしながらダイナミックな発展を続ける会社。つまり、坂本光司著「日本でいちばん大切にしたい会社」に紹介されている様な企業が、今の異端的存在から世の主流となった夢だった。母国の未来に憂いを覚えて久し

## 時評

# ウェーブ

2012. 1. 17

## 戦略・双子の異端児

いからこを見た夢だろう。世界史はこう教える。為政者に幸福追求を妨げられる人民は、いつか必ず国家の不安定を招くと。諸々の不安を抱く同胞が、政治不信のクレパスにはまってしまった状態に、長年危機感を募らしてきた。

「戦」を「略」す戦略なのだ。幸福追求の経営理念も、会社が存続する意義を社員への責任として捉える。社員とその家族を路頭に迷わせてはならない。だからこそ持続的な発展を本気で考える。国民総幸福量は、国家存続の意義を国民への責任として捉える。民を路頭に迷わせてはならない。だから持続的な発展を本気で考える。

「戦」を「略」す戦略なのだ。幸福追求の経営理念も、会社が存続する意義を社員への責任として捉える。社員とその家族を路頭に迷わせてはならない。だからこそ持続的な発展を本気で考える。国民総幸福量は、国家存続の意義を国民への責任として捉える。民を路頭に迷わせてはならない。だから持続的な発展を本気で考える。

「戦」を「略」す戦略なのだ。幸福追求の経営理念も、会社が存続する意義を社員への責任として捉える。社員とその家族を路頭に迷わせてはならない。だからこそ持続的な発展を本気で考える。国民総幸福量は、国家存続の意義を国民への責任として捉える。民を路頭に迷わせてはならない。だから持続的な発展を本気で考える。

と動く事業は民間主導で起り、政治と行政は後から追いかけてくるのが常だと。頼みの綱は民間のリーダーシップだ。我が国の憲法(第3章13条)が、生命と自由と並べて「国民の権利」と謳う幸福追求。それを可能にしようと動く経営理念の主流化に、母国安泰への長期戦略的な意味を見る。

「日本でいちばん大切にしたい」と動く事業は民間主導で起り、政治と行政は後から追いかけてくるのが常だと。頼みの綱は民間のリーダーシップだ。我が国の憲法(第3章13条)が、生命と自由と並べて「国民の権利」と謳う幸福追求。それを可能にしようと動く経営理念の主流化に、母国安泰への長期戦略的な意味を見る。

「日本でいちばん大切にしたい」と動く事業は民間主導で起り、政治と行政は後から追いかけてくるのが常だと。頼みの綱は民間のリーダーシップだ。我が国の憲法(第3章13条)が、生命と自由と並べて「国民の権利」と謳う幸福追求。それを可能にしようと動く経営理念の主流化に、母国安泰への長期戦略的な意味を見る。

「日本でいちばん大切にしたい」と動く事業は民間主導で起り、政治と行政は後から追いかけてくるのが常だと。頼みの綱は民間のリーダーシップだ。我が国の憲法(第3章13条)が、生命と自由と並べて「国民の権利」と謳う幸福追求。それを可能にしようと動く経営理念の主流化に、母国安泰への長期戦略的な意味を見る。